

A N N U A L R E P O R T 2 0 1 1

年 次 報 告 書



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

## ごあいさつ



財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

### 今井 敬

1990年に開催された生命の祭典「国際花と緑の博覧会」の理念を永く継承発展させるために設立されたのが、財団法人国際花と緑の博覧会記念協会です。

以来、「自然と人間との共生」という理念の継承発展に関する事業を行うとともに、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的とした数々の事業を行ってまいりました。

2011年度は、当協会の主要事業である「コスモス国際賞」（第19回）に、米国のワシントンDCに事務局がある「海洋生物センサス科学推進委員会」を選出いたしました。同委員会は、海洋生物の多様性、分布、生息数についての過去から現在にわたる変化を調査・分析し、海洋生物の将来を予測することを目指す壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」を主導されました。これは、環境と密接に関わり合って複合的なシステムを作っている生命系の本質を探ろうとするものであり、「自然と人間との共生」を掲げるコスモス国際賞の趣旨に合致する業績と評価いたしました。

普及啓発・継承発展事業におきましても、主催、共催、助成などさまざまな活動を関係機関、団体等のご支援、ご協力を得ながら行い、有意義な成果をあげることができました。

2012年度も、これまでの実績を踏まえながら、更なる事業の推進を図っていきたいと考えています。また、本年度はコスモス国際賞が第20回の節目を迎えることから、記念講演会等をはじめ、各種の記念事業を実施したいと存じます。

皆様方の当協会に対する更なるご支援とご協力をお願いいたします。

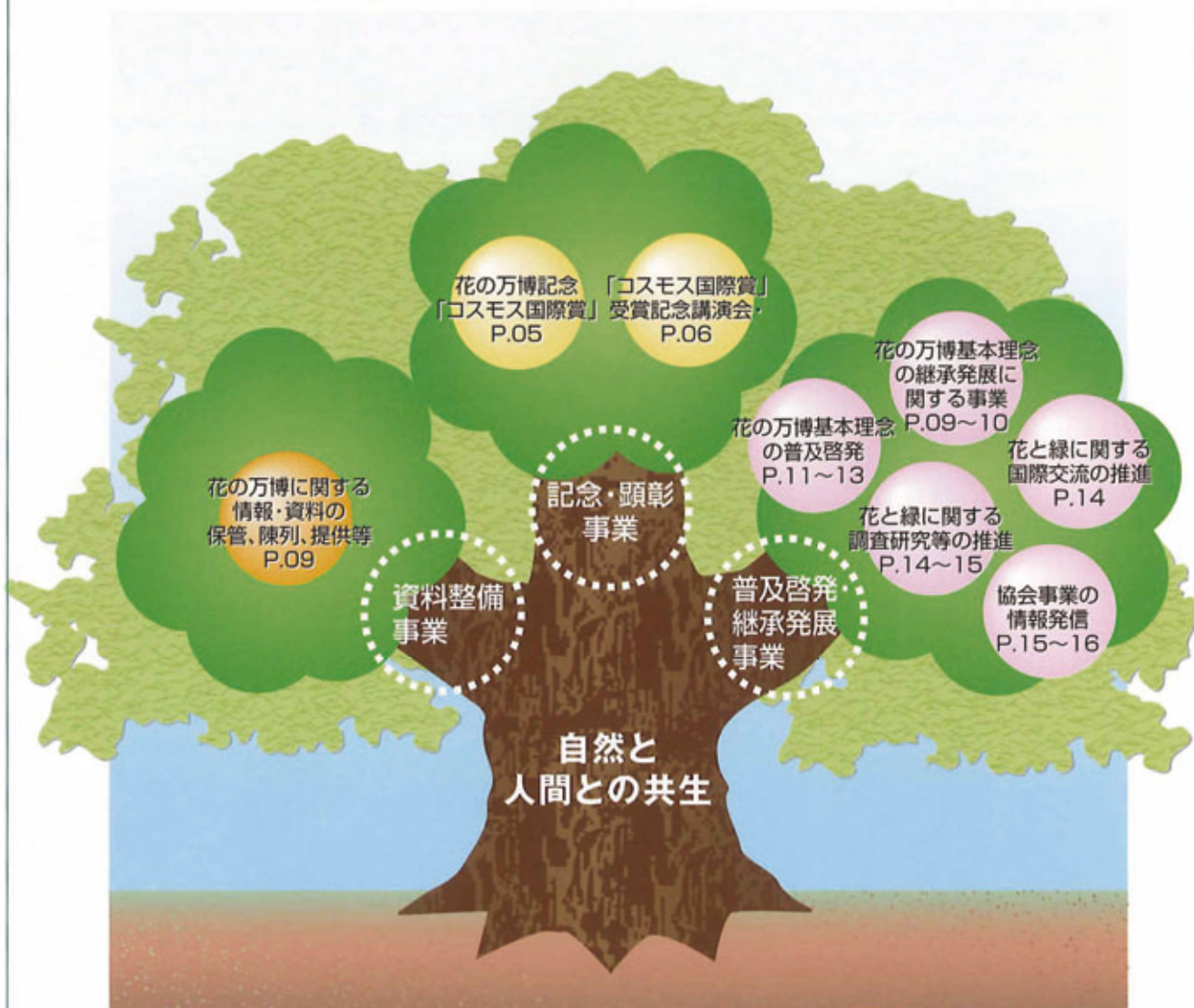
## 皇太子殿下ご接見



コスモス国際賞受賞者海洋生物センサス科学推進委員会委員長イアン・ポイナー博士夫妻は、皇太子殿下とお会いになった。

(平成23年10月17日 東宮御所にて)

国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という基本理念の継承・発展につながる様々な事業を実施しています。



#### 設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐくむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさくろうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会に携わった者の責務であると考えられる。

そのため、博覧会に携わった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

記念・  
顕彰事業

花の万博記念「コスモス国際賞」

「自然と人間との共生」という基本理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する花の万博記念「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」)の2011年(第19回)受賞者の選考結果を承認し、受賞式等を次のとおり実施しました。

受賞者の選考等

学識経験者14名(国内10名、海外4名)によるコスモス賞委員会(以下「賞委員会」)及び学識経験者10名(国内8名、海外2名)によるコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」)を設置し、選考作業を行いました。

<平成23年(2011年)受賞者の選考・決定等>

第1回賞委員会(平成22年10月14日)

第1回選考委員会(平成23年1月15日)

第2回・第3回選考委員会(平成23年5月24日、27日)

第4回選考委員会(平成23年6月27日)

第2回賞委員会(平成23年6月27日)

2011年コスモス賞受賞者に海洋生物センサス科学推進委員会を決定

第70回理事会(平成23年7月27日)

賞委員会の決定を承認し、同日内外の報道機関に対し、記者発表等を実施。



2011年(第19回)コスモス賞受賞者

海洋生物センサス科学推進委員会

海洋生物センサス科学推進委員会(SSC)は、海洋生物の多様性、分布、生息数についての現在、過去を調査・解析し、そのデータを海洋生物地理学情報システム(OBIS)という統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測する、壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」(CoML)を主導した。

<平成24年(2012年)受賞者の選考・決定等>

第1回賞委員会(平成23年10月18日)

第1回選考委員会(平成24年1月15日)

2011年  
(第19回)  
コスモス賞  
授賞式等の開催

国内外の賓客及び招待者約480名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

授賞式

日 時：平成23年10月18日(火) 午後3時～午後5時

場 所：いずみホール [大阪市中央区]

出席者：約480名

次 第：開会 賞委員及び選考専門委員等の紹介 主催者紹介  
来賓紹介(バトリック・リネハン駐大阪・神戸米国総領事館総領事、仲野博子農林水産大臣政務官、小林昭国土交通省大臣官房審議官、小河保之大阪府副知事、野々村節子大阪市ゆとりとみどり振興局長)  
主催者挨拶 授賞理由及び受賞者の紹介 受賞者入場  
賞状・賞金目録贈呈 メダル贈呈 来賓祝辞 受賞者挨拶 祝賀演奏 閉会



記念・  
顕彰事業

「コスモス国際賞」受賞記念講演会

コスモス国際賞  
受賞記念講演会

コスモス国際賞授賞式の関連行事として2011年受賞者海洋生物センサス科学推進委員会を代表して委員長  
のイアン・ポイナー博士による講演会を開催しました。

	● 大 阪	● 東 京
日 時	平成23年10月16日(日) 午後1時30分～午後4時	平成23年10月22日(土) 午後1時30分～午後4時30分
場 所	大阪歴史博物館講堂 [大阪市中央区]	国際連合大学ウ・タント国際会議場 [東京都渋谷区]
講 演	テーマ 海洋生物センサスの成果と今後の展望 講師 2011年(第19回)コスモス国際賞受賞者 海洋生物センサス科学推進委員会 委員長 イアン・ポイナー博士	テーマ 海洋生物センサスの世界
付 属 事 業	パネリスト等 プレゼンター 松下和夫 (コスモス国際賞選考専門委員会委員長) 特別講演 ジェシー・オースベル (CoML創設者) ミリアム・シブエー (SSC副委員長) 藤倉克則 (CoML日本実行委員会代表、 海洋研究開発機構上席研究員)	シンポジウム パネリスト イアン・ポイナー (SSC委員長) ジェシー・オースベル (CoML創設者) 藤倉克則 (CoML日本実行委員会代表、 海洋研究開発機構上席研究員) 武内和彦 (東京大学大学院教授) コーディネーター 白山義久 (SSC委員、海洋研究開発機構理事)
参加者	約180名	約180名
後 援	農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、アメリカ大使館	



受賞者  
高校派遣

次世代を担う高校生育成のため、昨年度に引き続き受賞者を高校に派遣した。

日 時	平成23年10月20日(木) 午後3時40分～午後5時
場 所	東京都立日比谷高等学校 [東京都千代田区]
テーマ	海洋生物センサスの成果と今後の展望
講 師	2011年(第19回)コスモス国際賞受賞者 海洋生物センサス科学推進委員会 委員長 イアン・ポイナー博士
参加者	1年生等 約400名



## 花の万博記念「コスモス国際賞」委員会委員

平成23年1月1日現在

委員長	岸本 忠三	大阪大学大学院生命機能研究科教授
副委員長	古在 由秀	日本学士院第2部部长
委員	岩槻 邦男	兵庫県立人と自然の博物館館長
委員	尾池 和夫	財団法人国際高等研究所所長
委員	グンナー・オーグスト	前スウェーデン王立科学アカデミー事務局長
委員	黒川 清	元日本学術会議会長
委員	小山 修三	吹田市立博物館館長
委員	A.H.ザクリ	元国連大学高等研究所所長
委員	鈴木 昭憲	東京大学名誉教授
委員	中村 桂子	JT生命誌研究館館長
委員	オーレ・フィリップソン	博覧会国際事務局 (BIE) 名誉議長
委員	ギリアン・フランス卿	エデン・プロジェクト科学部長
委員	松下 和夫	京都大学大学院地球環境学堂教授
委員	村上陽一郎	東洋英和女学院大学学長

## 花の万博記念「コスモス国際賞」選考専門委員会委員

平成23年1月1日現在

委員長	松下 和夫	京都大学大学院地球環境学堂教授
副委員長	武内 和彦	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
委員	秋道 智彌	総合地球環境学研究所副所長・教授
委員	今福 道夫	京都大学大学院名誉教授
委員	鯛取 章男	(独)物質・材料研究機構広報アドバイザー
委員	加藤 雅啓	国立科学博物館植物研究部長
委員	野家 啓一	東北大学大学院文学研究科教授
委員	齋谷 いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
委員	エンダン・スカラ	インドネシア科学院副院長
委員	ジェームズ・エドワーズ	アメリカ国立自然史博物館「生命の百科事典」顧問

## コスモス国際賞歴代受賞者

記念協会の主事業である花の万博記念「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生物学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

### 第1回 平成5年(1993)

ギリアン フランス卿  
Sir Ghillean Tolmie Prance



イギリス・王立キュー植物園園長

南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全体の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

### 第2回 平成6年(1994)

ジャック フランソワ バロー  
(物故)  
Dr. Jacques Francois Barrau



フランス・パリ国立自然史博物館教授

太平洋の島々の自然と人々の暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これをもとに人間と食糧をテーマに、全球的な視点からユニークな考察を発表した。

### 第3回 平成7年(1995)

吉良 龍夫  
(物故)  
Dr. Kira Tatuo



日本・滋賀県顧問、前琵琶湖研究所所長、大阪市立大学名誉教授  
光合成による植物の有機物生産の定量的研究をもとに、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割をつとめた。

### 第4回 平成8年(1996)

ジョージ ビールズ シャラー  
Dr. George Beals Schaller



アメリカ・野生生物保護協会科学部長

40年にわたり、世界各地で様々な野生動物の生態と行動を研究。「マウンテンゴリラ・生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

### 第5回 平成9年(1997)

リチャード ドーキンス  
Dr. Richard Dawkins



イギリス・オックスフォード大学博士

1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識を覆す大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して、学会に論争を起こした。

### 第6回 平成10年(1998)

ジャレド メイスン ダイヤモンド  
Dr. Jared Mason Diamond



アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部教授

医学部教授として生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらをもとに人類の歴史的な発展を再構成した。

### 第7回 平成11年(1999)

ウー チェン イー (呉 征鎰)  
Dr. Wu Zheng-Yi



中国・中国科学院昆明植物研究所教授、名誉所長

地球上で植物の種の最も豊かな地域の一つである中国全土の植物約3万種を網羅した「中国植物誌」の編集を主宰し、開発途上国における生物多様性に貢献した。

コスモス国際賞歴代受賞者

- |  |   |   |
|--|---|---|
| <p>第8回 平成12年(2000)<br/>デービッド アッテンボロー卿<br/>Sir David Frederick Attenborough</p>                                 |    | <p>イギリス・映像プロデューサー、自然誌学者、動物学者<br/>野生生物のドキュメンタリー映像のバイオニア。地球上の様々な動植物についての卓越した映像を通して、全世界の人々に生命の本質について訴えた。</p>                                       |
| <p>第9回 平成13年(2001)<br/>アン ウィストン スパーン<br/>Prof. Anne Whiston Spirn</p>  |    | <p>アメリカ・マサチューセッツ工科大学教授<br/>「都市と周辺環境とが調和した地域づくり」を提唱、自然と都市との共生をテーマに地域計画に取り組んだ。また自然と人間との関わりについて「無鯉を読む」という新しい視点を提示した。</p>                           |
| <p>第10回 平成14年(2002)<br/>チャールズ ダーウィン研究所<br/>The Charles Darwin Research Station</p>                             |    | <p>エクアドル<br/>ガラパゴス諸島の陸上、海域両面にわたる生物と生態系の調査を行い、島の自然を守る直接活動のほか、島の住民への環境教育、島の現状を全世界に伝える出版など、多角的な活動を行った。</p>   |
| <p>第11回 平成15年(2003)<br/>ピーター ハミルトン レーブン<br/>Dr. Peter Hamilton Raven</p>                                       |    | <p>アメリカ・ミズーリ植物園園長<br/>花と昆虫の共進化に関する研究を発表、花生物学分野の研究の端緒をつくった。人類生存には、地球の生物多様性保全が不可欠であると世界で最初に提起した。</p>  |
| <p>第12回 平成16年(2004)<br/>フーリャ カラビアス リジョ<br/>Prof. Julia Carabias Lillo</p>                                      |    | <p>メキシコ・メキシコ国立自治大学理学部教授<br/>常に途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、徹底したフィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合する手法でプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題にすぐれた成果を挙げた。</p>                     |
| <p>第13回 平成17年(2005)<br/>ダニエル ポーリー<br/>Dr. Daniel Pauly</p>   |  | <p>カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授<br/>幅広い視野と長期的視点で漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究し、海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モダルの開発など、海洋生態系と資源研究の分野ですぐれた業績を収めた。</p>        |
| <p>第14回 平成18年(2006)<br/>ラマン スクマール<br/>Dr. Raman Sukumar</p>  |  | <p>インド・インド科学研究所生態学センター教授<br/>ソウと人間の生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。</p>               |
| <p>第15回 平成19年(2007)<br/>ジョージナ メアリー メイス<br/>Dr. Georgina Mary Mace</p>  |  | <p>イギリス・ロンドン大学NERC(自然環境調査会議)<br/>個体群生物学研究センター所長兼教授<br/>絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取り組みを行った。</p>                |
| <p>第16回 平成20年(2008)<br/>ファン ゲン ホン<br/>Dr. Phan Nguyen Hong</p>   |  | <p>ベトナム・ハノイ教育大学名誉教授<br/>戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、マングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。中でもカンザー地区のマングローブ林再生・保全は世界で類のないものである。</p> |
| <p>第17回 平成21年(2009)<br/>グレッチェン カーラ デイリー<br/>Dr. Gretchen Cara Daily</p>  |  | <p>アメリカ・スタンフォード大学教授<br/>人類社会が依存する生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、生態学・経済学を統合し、自然資本の持続的な利用のために「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。</p>                      |
| <p>第18回 平成22年(2010)<br/>エステラ ベルゲレ レオポルド<br/>Dr. Estella Bergere Leopold II</p>                                 |  | <p>アメリカ・ワシントン大学名誉教授<br/>父アルド・レオポルド氏(1887-1948)が提唱した「土地倫理」を継承、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。また、現在でも人々の暮らしと社会の中に土地倫理を根ざす活動を続けている。</p>    |
| <p>第19回 平成23年(2011)<br/>海洋生物センサス科学推進委員会<br/>Scientific Steering Committee of the Census of Marine Life:SSC</p> |  | <p>海洋生物の多様性、分布、生息数についての現在、過去を調査・解析し、そのデータを海洋生物地理学情報システム(OBIS)という統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測する、壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」(CoML)を主導した。</p>          |

※肩書きは受賞時のものです。



資料整備  
事業

花の万博に関する情報・資料の保管、陳列、提供等

映像による  
日本植物誌  
(PPH)

PPH (プラント フォト ハンティング) とは、日本の野生植物を植物学者等が動画で撮影したもので、4000種、850時間におよぶ貴重な映像が蓄積されています。協会はこれを元に作品化してきましたが、平成23年度は、今まで制作した35作品を紹介するパンフレットを作成し、映像を貸出しに供することができるよう関係機関に配付しました。



情報等の提供

各種イベント等の主催者に対し、花の万博のノウハウ、情報等の提供を行いました。

海外・国・地方自治体	3件
企業及び個人等	8件

普及啓発・  
継承発展  
事業

花の万博基本理念の継承発展に関する事業

KOSMOS  
フォーラム

我が国の第一線の科学者の英知を集め、宇宙の新しい全体像を包括的に考察し、その中で人類の果たすことができる役割を探ろうというのがKOSMOSフォーラムです。平成23年度は「統合的視点で見る『海』とは」を統一テーマに、海のダイナミズム、海洋資源、民族移動について3回開催し、「統合的視点で見る島根とは」というテーマで島根でも行いました。また、東日本大震災の影響で延期となった食をテーマとした第23回KOSMOSフォーラムを、平成23年9月に開催しました。

第23回 テーマ 統合的視点で見る『食』とは ～世界と日本とつなぐ食～

日 時：平成23年9月3日(土) 午後2時～4時30分

場 所：ベルサール飯田橋ファースト [東京都千代田区]

パネリスト：佐藤洋一郎 (総合地球環境学研究所副所長・教授)

古 沢 広 祐 (國學院大学教授)

松 田 裕 之 (横浜国立大学大学院教授)

鷺 田 清 一 (大谷大学教授、前大阪大学総長)

コーディネーター：石毛直道 (国立民族学博物館名誉教授)

参加者：約240名

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、日本学士院



第24回 テーマ 統合的視点で見る『海』とは ～海・そのダイナミズム～

日 時：平成23年11月23日(水・祝) 午後2時～4時30分

場 所：ベルサール九段 [東京都千代田区]

パネリスト：窪川かおる (東京大学大学院特任教授)

後 藤 明 (南山大学教授)

平本紀久雄 (千葉の海と漁業を考える会代表)

保 坂 直 紀 (読売新聞東京本社科学部次長)

コーディネーター：池内 了 (総合研究大学院大学教授)

参加者：約240名

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、日本学士院



普及啓発・  
継承発展  
事業

KOSMOS  
フォーラム

第25回 テーマ 統合的視点で見る「海」とは ～海洋資源の未来は～

日時：平成24年1月22日(日) 午後2時～4時30分

場所：ベルサール九段 [東京都千代田区]

パネリスト：織田 洋一 (三井物産戦略研究所シニアプロジェクトマネージャー)  
黒倉 寿 (東京大学大学院教授)  
佐藤安紀子 (ウーマンズフォーラム魚事務局ディレクター)  
藤倉 克則 (海洋研究開発機構上席研究員)

コーディネーター：秋道 智彌 (総合地球環境学研究所教授)

参加者：約220名

後援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、日本学士院



第26回 テーマ 統合的視点で見る「海」とは ～民族移動と文化の伝播～

日時：平成24年3月4日(日) 午後2時～4時30分

場所：ベルサール神田 [東京都千代田区]

パネリスト：片山 一 道 (京都大学名誉教授)  
拓海 広志 (海洋エッセイスト)  
立本 成文 (総合地球環境学研究所所長)  
長谷川 權 (俳人)

コーディネーター：位田 隆一 (京都大学大学院教授)

参加者：約250名

後援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、日本学士院



地方版 テーマ 統合的視点で見る島根とは ～歴史・文化・風土～

日時：平成23年11月13日(日) 午後2時～4時30分

場所：くにびきメッセ [島根県松江市]

パネリスト：山 泰幸 (関西学院大学准教授)  
伊藤 康宏 (島根大学教授)  
八幡 浩二 (隠岐島文化財審議委員、  
島根自然保護協会理事)  
本間恵美子 (八雲立つ風土記の丘所長)

コーディネーター：小松 和彦 (国際日本文化研究センター副所長・教授)

参加者：約100名

共催：山陰中央新報社



花と自然の  
まちづくり  
フォーラム  
2011

日時：平成23年9月25日(日) 午後1時30分～7時

場所：旧善通寺信行社 [香川県善通寺市]

来場者：約220名

内容：住民や団体等のグループ5団体が事例発表を行い、併せて「ステキをつくるまちづくり～植物って面白い～」と題して、杉井志織氏(園芸家)による講演会と、参加者による交流会も開催しました。

共催：善通寺ガーデンクラブ

協力：公益財団法人日本花の会

後援：農林水産省、国土交通省、香川県、善通寺市ほか5団体



## 花の万博基本理念の普及啓発

**コスモスセミナー** 「自然と人間との共生」という理念の継承発展のため、コスモス賞や協会に関係する学者、知識人等を講師に招き実施しているもので、平成23年度は、次のとおり屋外での自然観察（フィールド型）セミナーと、小学校への講師派遣型セミナーを行いました。

**「自然観察教室」  
～集まれ昆虫  
好きな子供たち  
2011～**

開催日：平成23年8月2日（火）～8月4日（木）  
場 所：関西学術研究都市清滝・室池地区「アイ・アイ・ランド」[大阪府四條畷市]  
講 師：保田 淑郎（大阪府立大学名誉教授）  
岡島 秀治（東京農業大学教授）  
谷 幸三（淡水生物研究所理事）  
南 尚美（奈良生物研究会幹事）  
参加者：近畿圏の小学5～6年生 23名  
後 援：大阪府、大阪府教育委員会、奈良県、奈良県教育委員会、  
四條畷市、四條畷市教育委員会、生駒市、生駒市教育委員会、  
日本環境教育学会、日本環境動物昆虫学会、日本昆虫学会、  
日本生態学会、日本動物行動学会、日本鱗翅学会、日本昆虫協会、JT生命誌研究館



**小学校講師派遣**

テーマ「昆虫とは」  
日 時：平成23年6月8日（水）（3・4時間目）  
場 所：堺市立浜寺石津小学校 [大阪府堺市]  
講 師：谷 幸三（淡水生物研究所理事）  
参加者：小学校3年生 78名

テーマ「森と人との関わり」  
日 時：平成23年6月10日（金）（4時間目）  
場 所：箕面市立豊野東小学校 [大阪府箕面市]  
講 師：養父志乃夫（和歌山大学教授）  
参加者：小学校3年生 130名

テーマ「自然と生物」  
日 時：平成23年7月6日（水）（3・4時間目）  
場 所：甲賀市立土山小学校 [滋賀県甲賀市]  
講 師：谷 幸三（淡水生物研究所理事）  
参加者：小学校4～6年生 110名

テーマ「自然・いのちについて」  
日 時：平成23年11月15日（火）（3・4時間目）  
場 所：東大阪市立菱屋西小学校 [大阪府東大阪市]  
講 師：佐藤洋一郎（総合地球環境学研究所副所長・教授）  
参加者：小学校6年生 41名

テーマ「自然と人の関わり、いのちについて」  
日 時：平成24年2月16日（木）（5時間目）  
場 所：宇治市立笠取第二小学校 [京都府宇治市]  
講 師：今 福 道 夫（京都大学名誉教授）  
参加者：小学校3～6年生 14名



**小学校講師派遣  
（教員対象）**

テーマ「昆虫のくらし」  
日 時：平成24年2月1日（水）15:00～16:30  
場 所：亀岡市立吉川小学校 [京都府亀岡市]  
講 師：谷 幸三（淡水生物研究所理事）  
参加者：亀岡市小学校教育研究会理科部 35人



普及啓発・  
継承発展  
事業

◆花と緑に関する全国的な普及啓発

**第21回(2011年) 全国花のまちづくりコンクール**  
 花の万博の開催を契機に、「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして、農林水産省並びに国土交通省の提唱により平成3年度に創設された本コンクールに、次のとおり参画しました。  
 応募数：1,415件  
 入賞：農林水産大臣賞及び国土交通大臣賞 各2点をはじめ25点  
 表彰式  
 開催日：平成23年10月27日(木)  
 場所：法曹会館 [東京都千代田区]  
 受賞者：市町村、団体、個人、企業の4部門  
 主催：花のまちづくりコンクール推進協議会  
 [(財)国際花と緑の博覧会記念協会、(公財)日本花の会、(財)都市緑化機構、(財)日本花普及センター]



(農林水産大臣賞)

**花育活動 推進事業**  
 花や緑に親しみ・育てる機会を通して、やさしさや美しさを感じる気持ちを育む花育活動の取り組みを全国的な運動として推進する全国花育推進協議会に参加し、関係団体とともに、マニュアル、小中学校用副読本の作成、講習会やセミナー等の実施などの事業を行いました。

**花とみどりの 復興活動 支援事業**  
 東日本大震災の復旧・復興を花とみどりで支援するため、「花とみどりの復興支援ネットワーク」に参加し、復興活動に対する支援金の提供を行いました。  
 公募期間：平成24年2月27日(月)～3月31日(土)  
 公募件数：6件  
 支援総額：1,278,909円

◆花の万博開催の地元における普及啓発(府市理念継承事業)

花の万博開催の地元において基本理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と共同して実施しました。

**第27回 大阪府 都市緑化フェア**  
 花と緑あふれる豊かな街づくりを進めるため、都市緑化に関する府民の意識の高揚や知識の普及を図ることを目的に、毎年10月の都市緑化月間に開催しています。平成23年度は守口市で開催された第27回大阪府都市緑化フェアの実行委員会に参画し、支援を行いました。また、会場内の出展ブースにおいて協会の事業紹介パネルの展示を行いました。  
 開催日：平成23年10月16日(日)  
 場所：大日中央公園 [大阪府守口市]  
 来場者：約2,500人  
 内容：花苗・球根の配布、植木市、緑化相談、園芸講習会など  
 主催：第27回大阪府都市緑化フェア実行委員会



**緑化ボランティアのためのネットワーク支援業務**  
 大阪府域における緑化を府民協働により推進していくため、緑化ボランティアのネットワークの強化、構築に対して支援しました。  
 主催：(特活)緑の蝶々

**はならんまん 2011**  
 大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を喚起し普及啓発を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された各種事業に対して支援を行いました。  
 開催日：平成23年5月12日(木)～17日(火)  
 場所：鞆公園 [大阪市西区]  
 来場者：約37,000人  
 主催：大阪市



**大阪城公園 生き物環境保全活用事業**  
 大阪城公園での生き物調査や観光の視点での生き物環境の活用に関する検討、魅力向上の実現に向けた市民協働の検討調査を行いました。

“みどり”の  
ネットワーク構築  
検討プロジェクト

「みどりの風の道形成事業」として民有地の緑地推進を行い、緑地の整備効果について様々な角度からの検証調査に支援しました。また、生物多様性に資する都市公園のあり方を検討するため、大阪城公園生き物環境保全活用策検討調査に支援しました。

◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催による実施、また協賛等を行いました。

都市緑化推進  
運動

国土交通省、都道府県、市町村が主催して毎年全国的規模で実施される春の都市緑化推進運動期間(4~6月)及び都市緑化月間(10月)における「みどりの愛護のつどい」や都市緑化キャンペーン活動等の事業に対して、都市緑化推進運動協会に参加し、各種の国土交通省関連団体と共に協力等を行いました。

近畿都市緑化祭

近畿地方における都市緑化を推進するため、都市圏内の行政団体等が連携して、毎年10月の都市緑化月間中に京阪神の府県指定市が持ち回りで開催しています。平成23年度は、兵庫県で開催された「グリーンサーカス2011」に対して事業の支援、協賛を行いました。

開催日：平成23年10月15日(土)

場 所：神戸市神戸総合運動公園【兵庫県神戸市】

来場者：約22,000人

主 催：近畿都市緑化推進連絡協議会、みどりの5団体合同フォーラム

内 容：園芸教室、自然素材を使ったクラフト教室、都市公園の紹介、パネル展示など



後援等一覧

●催事名(開催時期)	●開催場所	●主 催	●名義
第13回国際バラとガーデニングショー (H23.5.11~5.16)	西武ドーム (埼玉県所沢市)	国際バラとガーデニング ショー組織委員会	後 援
大阪ばら祭2011 (H23.5.13~5.15)	花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館 (大阪市鶴見区)	(財)大阪市スポーツ・ みどり振興協会	後 援
平成23年度「都市緑化月間」 (H23.10.1~10.31)	全国	国土交通省、都道府県、 市町村	協 賛
第1回みどりのまちづくり賞 (H23.10.16)	大日中央公園 (大阪府守口市)	大阪府 (社)ランドスケープコン サルタンツ協会関西支部	会 長 賞
第48回大阪城菊の祭典 (H23.10.17~11.13)	大阪城公園内 本丸地区 (大阪市中央区)	大阪市	後 援
フラワーフェスティバル in 近畿 2011 (H23.10.28~10.30)	花博記念公園鶴見緑地・ 水の館ホール (大阪市鶴見区)	フラワーフェスティバル in 近畿実行委員会	後 援
第66回日本おもと名品展 (H23.11.26~11.27)	広島産業会館・東館 (広島市南区)	(公社)日本おもと協会	後 援
平成23年度 大阪府立花の文化園幼児・小中学生花の絵画展 (H24.1.5~2.5)	大阪府立花の文化園 (大阪府河内長野市)	(財)大阪府みどり公社	後 援
淡路夢舞台ラン展2012 (H24.1.21~3.11)	兵庫県立淡路夢舞台温室 「奇跡の星の植物館」 (兵庫県淡路市)	(株)夢舞台	後 援
第54回日本花き生産者大会・近畿大会 (H24.2.23~2.24)	リーガロイヤルホテル京都 (京都市下京区)	第54回日本花き生産者大会・ 近畿大会実行委員会	後 援
小品盆栽フェア「第20回春雅展」 (H24.3.23~3.25)	花博記念公園鶴見緑地・ 水の館ホール (大阪市鶴見区)	春雅展実行委員会	後 援

普及啓発・  
継承発展  
事業

花と緑に関する国際交流の推進

BIEコスモス賞  
への支援

花博記念協会の存在とコスモス国際賞の海外広報のため、BIE（博覧会国際事務局：本部パリ）とその創設を合意した「BIEコスモス賞」を支援しました。  
平成23年度は、2012年麗水万博において授賞される第3回BIEコスモス賞について、韓国・麗水にて、BIEと麗水万博協会との協議を行い、具体的な実施方法を決定しました。  
これを受けて、平成23年11月から24年3月にかけて全世界に公募が行われ、19ヶ国から28件の応募がありました。その後、これら応募に対して、予備選考作業が行われました。  
なお、第3回BIEコスモス賞の授賞式（平成24年8月11日）では、賞金2万ユーロの提供を予定しています。



フロリアード2012  
出展準備業務

2012年フェンロー国際園芸博覧会において、政府出展会場内での展示物の実施準備を行い、国際交流、造園技術の普及啓発等に寄与し、花の万博の理念継承に資するため、支援を行いました。

花と緑に関する調査研究等の推進

平成24年度  
助成対象の決定

博覧会の基本理念の継承発展又は普及啓発に資する調査研究、技術開発、活動、行催事等を支援するため、平成24年度の助成を次のとおり決定しました。

〈公募〉

公募期間：平成23年10月3日（月）～11月14日（月）

応募件数：38件

〈審査〉

審査期間：平成23年12月～平成24年2月

〈決定〉

審査結果報告をもとに、理事長が助成可否を決定し、平成24年3月29日（木）開催の第72回理事会において報告を行い、助成対象となった16団体に通知しました。

平成23年度  
助成対象一覧

平成23年度に実施された20件の事業について助成しました。

● 事業区分	● 助成対象事業名	● 助成対象団体名
調査研究開発	旭川市蛇紋岩地帯の植物の調査研究	(財)旭川市公園緑地協会
	ニホンジカをめぐる生物間相互作用の解明	奥日光野生動物研究グループ
	草はらの創出による生物多様性の回復と自然体験の促進	NPO法人 生態工房
	滋賀県朽木の巨樹に関する文化・生態調査	京都大学自然地理研究会
	絶滅危惧種ニッポンバラタナゴの保護	NPO法人 ニッポンバラタナゴ高安研究会
	種子供給により放棄林が自然植生と遷移する実践的研究	慶應義塾大学・ランドスケープ研究会
	外来種ヌートリアの密度制御と植生回復の実践的研究	外来種生態管理研究会
	屋久島における人と自然の関係史と保全状況の市民調査	屋久島まるごと保全協会
	活動・行催事	花と緑が大好き！こどものための実践的環境教育
絶滅危惧種：ウスイロヒョウモンモドキの保全・増殖		学校法人 加計学園
浜寺公園ばら庭園案内ボランティア育成講習会		浜寺公園ばら庭園案内倶楽部
長野公園を中心とした金剛山系の樹木と植物の保全活動		NPO法人 福祉のまちづくり実践機構
モリコロパークの自然観察と貴重生物保護活動		ネイチャークラブ東海
学校ピオトープづくり&八尾の食文化体験交流会		学校ピオトープ研究会
藤沢川河野林再生プロジェクト		NPO法人 北の森と川・環境ネットワーク[GRNeT]
和気浜公園整備公共工事に伴う希少野生動物植物保全活動		伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム
花の宴 里山自然体験 IN 山野草の里		山野草の里づくりの会
生き物と共生する「新しい里地里山」を目指して		自然遊学館「わくわくクラブ」
「学校の先生が開く親子土曜学校～花育園」		NPO法人 まちづくり教育協働企画エトセトラ
森と海と海草の栄養循環を体感する学習事業		NPO法人 NATURAS

平成23年度  
主な助成対象事業



絶滅危惧種ニッポンバラタナゴの保護



花と緑が大好き！こどものための実践的環境教育



蒜沢川河畔林再生プロジェクト

※他17事業

助成事業  
成果発表会

助成事業成果発表会を講演会とともに開催しました。

日 時：平成23年11月3日（木・祝）午後1時30分～7時

場 所：富山電気ビルディング【富山県富山市】

来場者：約100人

内 容：過去の助成対象者の中から5団体が事業の内容やその成果についての発表を行い、併せて「日本のガーデニングを極めるために～植物の力を信じて植える庭～」と題して、奥峰子氏（ガーデンデザイナー）による講演会と、団体と参加者による交流会を開催しました。

後 援：農林水産省、国土交通省、富山県・富山市ほか10団体



花博記念協会助成事業審査会 委員 平成24年3月31日現在

委員長	近藤 公夫	奈良女子大学名誉教授
副委員長	尼崎 博正	京都造形芸術大学教授
委員	今西 英雄	JFTD学園日本フラワーカレッジ校長
委員	佐倉 統	東京大学大学院情報学環教授
委員	須磨佳津江	キャスター・ジャーナリスト
委員	長村 智司	大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校校長
委員	服部 明世	前財団法人都市緑化技術開発機構理事長
委員	鷺谷いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科教授

協会事業の情報発信

ホームページ  
運営

当協会ホームページや「コスモス国際賞」、「KOSMOS フォーラム」の各ウェブサイトを実施事業の理解促進・普及のために活用するとともに、情報の更新、サイトの維持管理を行いました。



<http://expo90.jp/>



<http://www.expo-cosmos.or.jp/>



<http://www.kosmos-forum.org/>

コスモス国際賞  
の広報

コスモス国際賞の受賞者の研究業績紹介のため、NHK大阪放送局のアトリウムにて2011年コスモス国際賞受賞者「海洋生物センサス科学推進委員会」のパネル展示と、海の生物をモチーフにしたフラワーカーペットを実施しました。

（協力：(独)海洋研究開発機構）



普及啓発・  
継承発展  
事業

コスモス国際賞  
の広報

雑誌「WEDGE」「SCIENCE」に、コスモス国際賞の概要と2011年受賞者の業績を掲載しました。



最新受賞者情報を掲載したパンフレットを作成しました。



プレスネット  
ワークの構築

当協会事業の発信性を高めるため、新聞社との共催事業を実施する等、協力体制（プレスネットワーク）の構築を図りました。また、H22実施校からの要望により、管理指導者を派遣しました。

毎日新聞社との共催「小・中学校における生態園づくり」  
（特別協力：大阪府立園芸高等学校）

- 場 所：阪南市立波太小学校 [大阪府阪南市]  
内 容：バタフライガーデン
- 場 所：大阪市立育和小学校 [大阪府大阪市]  
内 容：トンボ池
- 場 所：大阪市立巽小学校 [大阪府大阪市]  
内 容：ミニ田んぼ
- 場 所：枚方市立香里小学校 [大阪府枚方市]  
内 容：里山ピオトーブ
- 場 所：和泉市立信太中学校 [大阪府和泉市]  
内 容：バタフライガーデン



- （管理指導者派遣）
- 日 時：平成23年7月5日（火）
  - 場 所：大阪市立北粉浜小学校
  - 講 師：谷 幸 三（淡水生物研究所理事）
  - 参加者：小学校5年生 28人



フラワー  
カーペット

球根育成のため、廃棄されるチューリップの花を用いて、約200名のボランティアが地上に花絵を制作しました。デザイン画は、大阪市立すみれ小学校と大阪市立鶴見商業高等学校によるものです。なお、展望車乗車時の募金と会場内に設置した募金箱に寄せられた482,772円は、東日本大震災の復興支援として、日本赤十字社に寄付しました。



- 日 時：平成23年  
4月29日（金・祝）～5月1日（日）
- 場 所：花博記念公園鶴見緑地中央通
- 規 模：5m×10m×5面
- 同時開催：鶴見区安全なまちづくり推進協議会主催  
グリーンコンサート





理事会 2011年度開催実績

	●開催日	●場所	●議題
第69回理事会	平成23年 6月21日(火)	経団連会館	平成22年度事業報告及び収支決算の件
第70回理事会	平成23年 7月27日(水)	ホテルニューオータニ 東京	評議員の選任の件 2011年(第19回)花の万博記念「コスモス国際賞」 受賞者の承認の件
第71回理事会	平成23年 11月21日(月)	経団連会館	最初の評議員の選任方法の件 評議員の選任の件
第72回理事会	平成24年 3月29日(木)	大阪キャッスルホテル	花博記念協会の解散及び出捐金の返還の件 事業推進引当金の記念基金への移し替えの件 平成23年度収支予算の補正の件 平成24年度事業計画及び収支予算の件 評議員の選任の件/顧問及び参与の委嘱の件 会長・副会長・理事長等の選任の件 評議員選定委員会委員の選任の件 平成24年度資産運用方針の件 役員退職手当支給規程の廃止の件/役員報酬の件

評議員会 2011年度開催実績

	●開催日	●場所	●議題
第36回評議員会	平成23年 11月21日(月)	経団連会館	最初の評議員の選任方法の件
第37回評議員会	平成24年 3月28日(水)	ホテルラフォーレ 新大阪	事業推進引当金の記念基金への移し替えの件 平成23年度収支予算の補正の件 平成24年度事業計画及び収支予算の件 理事の改選の件/理事の選任の件/監事の選任の件 評議員選定委員会委員の選任の件

2011年度決算

貸借対照表総括表 平成24年3月31日現在

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
<b>I 資産の部</b>					
1. 流動資産					
現金預金	134,535,995				134,535,995
未収金	83,687,433			△83,687,433	0
未収収益	569	74,119,544	9,567,889		83,688,002
有価証券	23,418,000				23,418,000
前払金	72,000				72,000
流動資産合計	241,713,997	74,119,544	9,567,889	△83,687,433	241,713,997
2. 固定資産					
(1)基本財産					
基本財産定期預金			30,000,000		30,000,000
基本財産投資有価証券			800,000,000		800,000,000
基本財産合計	0	0	830,000,000	0	830,000,000
(2)特定資産					
退職給付引当資産	47,079,700				47,079,700
記念基金		7,593,587,400			7,593,587,400
特定資産合計	47,079,700	7,593,587,400	0	0	7,640,667,100
(3)その他の固定資産					
什器備品	23,527				23,527
その他の固定資産合計	23,527	0	0	0	23,527
固定資産合計	47,103,227	7,593,587,400	830,000,000	0	8,470,690,627
資産合計	288,817,224	7,667,706,944	839,567,889	△83,687,433	8,712,404,624

単位:円

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
<b>II 負債の部</b>					
1. 流動負債					
未払金	33,411,424	74,119,544	9,567,889	△83,687,433	33,411,424
預り金	2,013,676				2,013,676
賞与引当金	2,908,190				2,908,190
流動負債合計	38,333,290	74,119,544	9,567,889	△83,687,433	38,333,290
2. 固定負債					
退職給付引当金	47,079,700				47,079,700
固定負債合計	47,079,700	0	0	0	47,079,700
負債合計	85,412,990	74,119,544	9,567,889	△83,687,433	85,412,990
<b>III 正味財産の部</b>					
1. 指定正味財産					
寄付金		9,200,300,000	800,000,000		10,000,000,000
基本財産運用益			30,000,000		30,000,000
特定資産運用益		362,308,000			362,308,000
特定資産評価差額		△1,968,420,600			△1,968,420,600
指定正味財産合計		7,593,587,400	830,000,000		8,423,587,400
(うち基本財産への充当額)			(830,000,000)		(830,000,000)
(うち特定資産への充当額)		(7,593,587,400)			(7,593,587,400)
2. 一般正味財産	203,404,234	0	0	0	203,404,234
正味財産合計	203,404,234	7,593,587,400	830,000,000	0	8,626,991,634
負債及び正味財産合計	288,817,224	7,667,706,944	839,567,889	△83,687,433	8,712,404,624

正味財産増減計算書総括表 平成23年4月1日から平成24年3月31日まで 単位：円

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益			39,448,556		39,448,556
基本財産受取利息			39,448,556		39,448,556
特定資産運用益	6,006,104	179,154,243			185,160,347
特定資産受取利息	6,006,104				6,006,104
記念基金受取利息		179,154,243			179,154,243
雑収益	362,438				362,438
宿舍使用料収益	240,000				240,000
雑収益	122,438				122,438
他会計からの繰入額	218,602,799			△218,602,799	0
基本財産会計からの繰入額	39,448,556			△39,448,556	0
記念基金会計からの繰入額	179,154,243			△179,154,243	0
有価証券評価益	792,000				792,000
有価証券評価益	792,000				792,000
経常収益計	225,763,341	179,154,243	39,448,556	△218,602,799	225,763,341
(2) 経常費用					
事業費	299,696,890				299,696,890
記念事業費	153,460,145				153,460,145
普及啓発費	117,677,171				117,677,171
20周年事業費	28,559,574				28,559,574
管理費	78,721,479				78,721,479
人件費	55,236,395				55,236,395
管理諸費	23,485,084				23,485,084
有価証券償還損	494,500				494,500
有価証券償還損	494,500				494,500
他会計への繰出額		179,154,243	39,448,556	△218,602,799	0
一般会計への繰出額		179,154,243	39,448,556	△218,602,799	0
経常費用計	378,912,869	179,154,243	39,448,556	△218,602,799	378,912,869
当期経常増減額	△153,149,528	0	0	0	△153,149,528
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
引当金戻入益	350,000,000				350,000,000
事業推進引当金戻入益	350,000,000				350,000,000
経常外収益計	350,000,000	0	0	0	350,000,000
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	350,000,000	0	0	0	350,000,000
当期一般正味財産増減額	196,850,472	0	0	0	196,850,472
一般正味財産期首残高	6,553,762	0	0	0	6,553,762
一般正味財産期末残高	203,404,234	0	0	0	203,404,234
<b>II 指定正味財産増減の部</b>					
特定資産運用益		362,132,243			362,132,243
記念基金受取利息		341,162,243			341,162,243
記念基金投資有価証券償還益		20,970,000			20,970,000
特定資産評価損		731,957,600			731,957,600
記念基金投資有価証券評価損		731,957,600			731,957,600
一般正味財産への振替額		179,154,243			179,154,243
一般正味財産への振替額		179,154,243			179,154,243
当期指定正味財産増減額	0	△548,979,600	0	0	△548,979,600
指定正味財産期首残高	0	8,142,567,000	830,000,000	0	8,972,567,000
指定正味財産期末残高	0	7,593,587,400	830,000,000	0	8,423,587,400
<b>III 正味財産期末残高</b>	203,404,234	7,593,587,400	830,000,000	0	8,626,991,634

キャッシュ・フロー計算書総括表 平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

単位：円

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
<b>I 事業活動によるキャッシュ・フロー</b>					
1. 事業活動収入					
基本財産運用収入			39,448,251		39,448,251
基本財産利息収入			39,448,251		39,448,251
特定資産運用収入	7,087,860	337,263,712			344,351,572
記念基金利息収入		337,263,712			337,263,712
特定資産利息収入	7,087,860				7,087,860
雑収入	362,428				362,428
宿舍使用料収入	240,000				240,000
雑収入	122,428				122,428
他会計からの繰入金収入	214,703,963			△214,703,963	0
基本財産会計からの繰入金収入	39,448,251			△39,448,251	0
記念基金会計からの繰入金収入	175,255,712			△175,255,712	0
事業活動収入計	222,154,251	337,263,712	39,448,251	△214,703,963	384,162,251
2. 事業活動支出					
記念事業費支出(配賦前)	100,610,975				100,610,975
資料等整備費支出(配賦前)	2,499,000				2,499,000
普及啓発費支出(配賦前)	66,281,551				66,281,551
20周年事業費支出(配賦前)	11,419,228				11,419,228
人件費支出(配賦前)	142,016,873				142,016,873
管理諸費支出(配賦前)	34,523,940				34,523,940
有価証券償還損	494,500				494,500
他会計への繰入金支出		175,255,712	39,448,251	△214,703,963	0
一般会計への繰入金支出		175,255,712	39,448,251	△214,703,963	0
事業活動支出計	357,846,067	175,255,712	39,448,251	△214,703,963	357,846,067
事業活動によるキャッシュ・フロー	△135,691,816	162,008,000	0	0	26,316,184
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>					
1. 投資活動収入					
特定資産取崩収入	202,850,700				202,850,700
退職給付引当資産取崩収入	348,200				348,200
事業推進引当資産取崩収入	202,502,500				202,502,500
特定資産償還収入		100,000,000			100,000,000
記念基金投資有価証券償還収入		100,000,000			100,000,000
投資活動収入計	202,850,700	100,000,000	0	0	302,850,700
2. 投資活動支出					
特定資産取得支出	5,151,000	262,008,000			267,159,000
退職給付引当資産取得支出	5,151,000				5,151,000
記念基金投資有価証券取得支出		162,008,000			162,008,000
記念基金定期預金取得支出		100,000,000			100,000,000
投資活動支出計	5,151,000	262,008,000	0	0	267,159,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	197,699,700	△162,008,000	0	0	35,691,700
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>					
財務活動によるキャッシュ・フロー					
<b>IV 現金及び現金同等物の増減額</b>	62,007,884	0	0	0	62,007,884
<b>V 現金及び現金同等物の期首残高</b>	72,528,101	0	0	0	72,528,101
<b>VI 現金及び現金同等物の期末残高</b>	134,535,985	0	0	0	134,535,985

財団の概要 (平成24年4月1日現在)

名称	財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition, Osaka, Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年(平成3年)11月1日
主務官庁	農林水産省、国土交通省
所在地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

役員

会長	今井 敬	(公社)日本経済団体連合会名誉会長
副会長	佐藤 茂雄	大阪商工会議所会頭
理事長	三井 康壽	政策研究大学院大学客員教授
専務理事	日尾野興一	常勤
常務理事(空席)		
理事	今西 英雄	JFTD学園日本フラワーカレッジ校長
理事	小河 保之	大阪府副知事
理事	奥水 肇	明治大学農学部教授
理事	田中 清剛	大阪市副市長
監事	北山 諒一	公認会計士
監事	堀井 良股	(公財)関西・大阪21世紀協会理事長

任期:平成24年4月1日～平成26年3月31日

評議員

評議員	青木 保之	(学)東洋女子学園理事
評議員	小林 庄一郎	関西電力(株)顧問
評議員	近藤 公夫	奈良女子大学名誉教授
評議員	嶋 元利樹	日本放送協会大阪放送局局長
評議員	佐々木 正峰	(独)国立科学博物館顧問
評議員	長 倉 三 郎	前日本学士院長
評議員	畑 中 孝 晴	(財)日本花普及センター評議員
評議員	波多野 敬雄	(学)学習院院長
評議員	羽 田 光 一	(公社)日本家庭園芸普及協会会長
評議員	濱 口 義 曠	(公財)農村更正協会会長
評議員	樋 口 武 男	大阪商工会議所副会頭
評議員	藤 巻 司 郎	(公社)日本造園建設業協会会長
評議員	藤 原 忠 彦	全国町村会会長
評議員	松 下 正 幸	(公財)松下幸之助記念財団理事長
評議員	森 民 夫	全国市長会会長
評議員	山 田 啓 二	全国知事会会長

任期:平成24年4月1日～公益財団法人の移行登記が完了した日まで

顧問

顧問	豊 蔵 一	
顧問	中川 和雄	大阪日韓親善協会会長
顧問	牧 野 徹	(財)日本住宅総合センター理事長

任期:平成24年4月1日～公益財団法人の移行登記が完了した日まで

参 与

参 与	泉 眞 也	環境プロデューサー
参 与	岩 槻 邦 男	兵庫県立人と自然の博物館館長
参 与	久 野 明 子	(社)日米協会理事
参 与	澤 田 隆 治	(社)全日本テレビ番組制作社連盟顧問
参 与	中 村 桂 子	JT生命誌研究館館長
参 与	樋 口 春 三	(学)平松学園大分短期大学学長
参 与	松 延 洋 平	ジョージタウン大学客員教授
参 与	松 本 洋	(財)国際文化会館理事
参 与	ルイ・サトウ	在仏建築家

任期:平成24年4月1日～公益財団法人の移行登記が完了した日まで

協会事務局 (TEL : 06-6915-4500、FAX : 06-6915-4524)

〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL : 06-6915-4500)  
〈理事会・評議員関係、予算・決算、基金運用等〉
- ◆企画部 (TEL : 06-6915-4516)  
〈助成事業、花と緑に関する普及啓発等〉
- ◆事業部 (TEL : 06-6915-4513)  
〈コスモス国際賞関係、KOSMOSフォーラム、コスモスセミナー関係等〉

### 博覧会に関する記念事業

#### 1. 2012年(第20回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という)の基本理念である「自然と人間との共生」に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2012年(第20回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

平成24年度は、2012年の受賞者の選考、決定及び2013年(第21回)の選考準備を行います。2012年の受賞者は7月下旬を目途に承認、発表し、10月29日に授賞式を開催します。

#### 2. 受賞記念講演会等

「コスモス国際賞」授賞式に関連して、受賞者の記念講演会等を開催します。

開催時期:平成24年11月上旬

開催場所:東京と大阪の2カ所

#### 3. 周年事業

2012年にコスモス国際賞は第20回目の節目を迎えます。これを機に、コスモス国際賞の意義や理念の重要性を社会にさらに広めるために、歴代受賞者を招聘し、大阪府および東京都の高校生を招待する20周年記念講演会を実施します。

### 博覧会理念の普及啓発・継承発展事業

#### 1. 理念の継承発展の推進事業

##### ◆KOSMOSフォーラム

花の万博の理念の継承発展を図るため、自然科学、人文・社会科学の各分野を越えた学術の交流と融合を目指す学者・研究者のネットワークづくりの場となるフォーラムを引き続き開催します。

##### ◆コスモスセミナー

花の万博の理念の継承と啓発を目的として、協会事業に関係する学者、知識人等を講師に招き、セミナー(自然観察教室、小学校への講師派遣)を引き続き実施します。

#### 2. 花と緑に関する国際交流の推進

##### ◆BIEコスモス賞への支援

博覧会国際事務局(BIE)と共催で、花の万博の理念を継承し、かつ今後開催される国際博覧会のテーマに沿った先駆的市民活動に対する顕彰事業として設けたBIEコスモス賞を、平成24年開催の韓国麗水において第3回の本賞を授与します。

##### ◆フロリアード2012 出展準備業務

2012年フェンロー国際園芸博覧会開催における政府出展会場内での展示業務の実施に支援していきます。

#### 3. 花と緑に関する全国的な普及啓発

##### ◆全国花のまちづくりコンクール

花の万博開催を契機に、「花と緑の国づくり及びまちづくり」を目的として、農林水産省及び国土交通省の提唱により平成3年度に創設されたもので、平成24年度は22回目を迎えます。

主催:花のまちづくりコンクール推進協議会

##### ◆花とみどりの復興活動支援事業

東日本大震災の復旧・復興を花とみどりで支援するため、平成23年度より引き続き「花とみどりの復興支援ネットワーク」に参加し、復興活動に対する支援金の提供を行います。

##### ◆花育活動推進事業

花育とは、農林水産省、国土交通省及び文部科学省の指導・支援の下、花き業界や造園業界等の関係団体が主体となって、花や緑を通じて子供たちの情操教育を行うもので、平成20年度から全国花育活動推進協議会に参画して、その推進に努めています。24年度は引き続き花育事業のより一層の推進とそれを促進するツールとして花育活動実践マニュアルと花育副読本を作成します。

##### ◆大阪府市理念継承事業

花の万博開催の地元において実施する理念の継承・普及啓発に関する事業を、地元公共団体及び各種団体等との共催等により実施します。また、昨年度より引き続き、花や緑、生き物などの都市における自然の構成要素すべての総称としての「みどり」をネットに拡大していくための「みどりのネットワーク構築検討プロジェクト」の推進を行います。

##### ◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催により実施するほか、協賛、後援等を行います。

#### 4. 花と緑に関する調査研究等の推進

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究開発」並びに「活動・行催事」を支援するため、全国公募による助成事業を引き続き行います。

#### 5. 情報発信運営に関する業務

##### ◆協会ホームページの運営等

協会が実施する事業への理解促進及び普及のため、協会のホームページ並びに「コスモス国際賞」、「KOSMOSフォーラム」のホームページの運営管理を行います。また、協会の概要を周知するためのパンフレット及び年次報告書等を作成します。

##### ◆プレスネットワークの構築

コスモス国際賞をはじめ協会事業の認知度を高めるため、プレス等との共催事業を実施し、ネットワークの構築を行います。

##### ◆フラワーカーペット

鶴見緑地におけるフラワーカーペットを引き続き実施することにより、近隣の市民団体・企業等とのコミュニケーションを図り、地域内でのネットワーク構築を目指します。

##### ◆コスモス国際賞受賞者との連携事業等

コスモス国際賞の意義、受賞者の研究業績、授賞式及び記念講演会の内容等を取りまとめた報告書を作成、配付します。また、受賞者の著作物等の各種情報を収集し、これらを協会ホームページで紹介します。

### 協会運営・事業の再構築に向けた取組み

#### 1. 大阪府・市事業運営検討会議の設置

大阪府・市と連携のとれた事業の実施に向け、府、市、協会の職員からなる「大阪府・市事業運営検討会議」を設置し、地元へ貢献し親しまれる事業の検討・実施を図ります。

#### 2. 資産運用委員会の設置

資産運用について、外部の専門家等から意見を聞くため「資産運用委員会」を設置し、資産運用方針を検討することにより、資産運用の更なる健全化を推進します。



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<http://www.expo90.jp/>